

21 世紀 COE 「京都大学化学連携研究拠点」 外国人講演会報告

化学研究所 磯田正二

研究集会名； 21 世紀 COE 講演会

講師； Prof. Raynald GAUVIN (Department of Mining, Metals & Materials Engineering, McGill University, Canada)

演題； "X-Ray Microanalysis in the Electron Microscope"

日時； 平成18年8月23日（水） 14:00 – 15:30

場所； 化学研究所 新4階セミナー室 (C469)

総参加者概数： 約26名（教員約6名、研究員・大学院生約18名、企業研究者2名）

主な参加者： 磯田正二、足立基齊、倉田博基、藤田真

講演内容；

R. Gauvin教授の最近の研究対象は複合材料系のX線微小化学分析で、特にモンテカルロシミュレーションによる定量解析の第一線で活躍されています。また、Microbeam Analysis Society of Americaの会長などを勤められる世界的に著名な研究者としてご活躍中です。この度は、札幌での国際顕微鏡学会に参加のために来日されました。本講演では、X線微小分析のためのシミュレーションソフト(CASINO)の紹介に始まり、透過型電子顕微鏡や走査型透過電子顕微鏡での分析事例、また後方散乱での分析事例を多数発表していただいた。特に、吸収ピークが近接する元素種の分析方法や定量解析のための補正因子の物理的な背景を詳細に論じていただき、若手研究者の参考になった。更に、標準試料無しでの分析への将来展望を熱意を込めて語っていただき、そのためには電界放出型の高輝度高干渉性電子源の重要性を訴えられ、化学研究所で開発中の新規電子源への期待も寄せられた。活発な討論は講演会後の懇親会まで引き続いた。

講演会の様子；

